

■第5回会津美里町観光振興計画策定委員会議事録

日 時：平成28年1月28日（木）13:30～15:00

場 所：本郷庁舎 ふれあいセンター（2階会議室）

出席委員：石原委員、小泉委員、星野委員、高梨委員、鈴木委員、小林委員、長谷川委員（計7名）

事務局（会津美里町商工観光課）：阿部課長、鈴木課長補佐、立川係長、川田主任主査
（株コムテック地域工学研究所）：須原、脇門

1. 開会（事務局）

2. 委員長挨拶

- ・1年間色々のご議論頂いたが、本日はその最終委員会である。これで終わるのではなく、次の始まりと認識して頂ければと思う。計画書案について、忌憚のないご意見を頂きたい。
- ・昨年1月に会津美里町に来た時は、前が全く見えない真っ白な世界で、車での移動もドキドキする程だったが、本日はそれが嘘のように暖かい。

3. 議事

（1）会津美里町観光振興計画について

（コンサルタントより資料説明）

<委員長>

- ・資料1 p3の4番の意見にある「観光ガイド」とはどのようなものを指しているのか。

<事務局（コンサルタント）>

- ・観光協会で実施している観光ガイドのことである。計画書 p34に概要を整理している。

<事務局（町）>

- ・本計画のパブリックコメントは12件ですべて町議会からのご意見だった。資料2はその町議会からのご意見と、町観光協会に計画案をご説明した際のご意見をまとめたものであり、本日皆様の承認を得た上で、パブリックコメントへの意見の募集結果として公表する予定である。
- ・表紙案を事務局で5つ用意したので、本日この場で決めて頂ければと思う。

（貼り出された表紙案について検討した結果、方向性を以下の通りとした。）

- ・写真4枚使い（田んぼの大きな写真1枚と各地域を代表する写真を1枚ずつ）の表紙案

をベースとする。

- ・計画書なので、タイトルは上に表示し、白地に黒文字とする。
- ・観光振興の計画なので、写真に人が入っている方が良い。高田地域は大俵引きの写真を使ったらどうか。
- ・以上の方向性にに基づき、事務局で再検討する。

<委員>

- ・先日参加した DMO の研修会で、岐阜県高山市の Wifi に関する事例を聞いた。高山市では既に無料の Wifi を整備し、観光客に利用して頂いている。利用する際には、接続先を設定する必要があるが、市ではその時に簡単なアンケートを実施し、マーケティングの資料としている。そこから様々なことが見えてきており、市の観光戦略を練る上で、非常に重要なデータになっているようだ。
- ・今後、本町で Wifi を整備する際には、そこで得られたデータを DMO が活用できるような方針を、併せ持っていた方が良いのではないかと。これを計画書に反映する場合、Wifi に関する箇所の実施主体に DMO を入れる方法が考えられる。まだ DMO が立ち上がっていないので、時期尚早かもしれないが、今後のためにそのような方針を併せて考えて頂ければと思う。

<委員長>

- ・これは市の事業か。

<委員>

- ・どこの予算かは分からないが、市が主体となって市内観光地に整備したものである。アンケートの調査項目は、どこの国から来たか、年齢、性別等の基本データと来訪目的等の 8 項目程度である。このアンケート結果から、イスラエル人が非常に多いことが分かった。イスラエル人の数そのものは少ないが、訪日イスラエル人の 7 割が高山市を訪れていることが分かった。この結果を基に、今年から、イスラエルに向けて観光 PR を打ち、具体的な商品を作り売り込んでいくとのことだった。

<委員長>

- ・イスラエルで作られている日本旅行は、総花的なものではなく、マニアックなものが多い。

(2) 平成 28 年度事業について

(町より資料説明)

<委員長>

- ・観光振興で大事なことは、要が必要だということである。推進協議会はDMOそのものであり、これが発展すればDMOになる。DMOの実態を把握することも重要である。様々な成功事例と同じくらい失敗事例もあるので、他から学ぶことが重要である。事例を見ると、ひとり勝ちしているところはうまくいっていない場合が多い。例えば、温泉地の再生でDMOをやる場合、一軒だけひとり勝ちしているとうまくいかない。つまり、皆が少しずつ利益を得るような進め方が必要である。なるべく多くの方にご参加頂くのが良い。
- ・年5回の推進協議会でできることは限られてくるので、地域別事業では、タスクフォースのような形で実際にやってみる必要があるのではないか。例えば、食などは、そのターゲットとなる女性に検討に入って頂くのが良い。このようなタスクフォースで、一緒に検討していき、年度末には少し具体的な形で提示する等が必要だろう。
- ・現在、会津美里町のWifi環境はどのようになっているのか。

<事務局(町)>

- ・一部の施設ではWifiを利用することができるが、屋内に限られており、あまり普及していない。具体的には、ほっとぴあとインフォメーションセンターで利用することができる。

<委員長>

- ・国の予算はあるのか。

<事務局(町)>

- ・国の予算は防災と絡めた内容にする必要があるが、防災を絡めると膨大な費用がかかるので、できれば地方創生事業を活用し、最小限必要なものを整備していきたい。

<委員長>

- ・そもそも町内に携帯電話が繋がらないエリアはあるのか。

<事務局(町)>

- ・人が住んでいるエリアでは、携帯電話がつながるように対応済みである。

<委員長>

- ・このような基本的な事項も含めて調査していく必要がある。次年度は、ワークショップとは別の、このような作業が必要になってくるだろう。

<委員>

- ・ DMO を検討していくことを、町民に理解して頂けるかどうか心配である。DMO の推進で国が想定しているものは、ハワイの観光局など、観光でやっていこうと腹をくくった地域が、それなりの予算を投じて、マーケティングを行い、プロモーションを打っていくという、大規模なものが多い。本町の場合は、DMO に乗っかるのではなく、会津美里としてやりたい観光の中で、活用できるものは活用するくらいが良いのではないかと。他に分かりやすい代わりの言葉がないので、DMO と表現するのはやむを得ないが。
- ・ かつて中心市街地活性化の目玉事業として TMO があった。商店街だけでなく地域全体で活性化するための推進組織として、国の音頭で TMO が立ち上がったが、多くは空中分解している。そうした中、会津若松の TMO は全国的に見ても優良事例と言われている。成功の理由は、リスクを持った事業を中核に据えている点にある。例えば、テナントなどの不動産事業を回している。会津若松の場合、受託事業(窓口業務、駐車場管理など)が TMO の基幹事業となっており、これをベースに他の事業も展開している状況である。会津美里町はどのような切り口でやっていくべきかが課題である。現時点で具体的にどうすべきか示すのは難しいが、DMO がうまくいけば、町の観光がバラバラにならずに一体的に進めていけるので期待している。

<委員長>

- ・ そもそも DMO は、観光を主たる産業とする地域が始めたものである。美里は、これから観光を産業として育てていこうという地域である。名称は DMO が的確だが、美里 DMO であればよいわけで、この町でいかにやっていくかが重要である。
- ・ 町は、町の観光について、どのようなことを考えていて、どのようなことをやり、どのようなメリットがあるのか、もっと町民に浸透させていく必要がある。情報発信には、来てもらいたい人たちに向けてと、地元の方々に向けての 2 つあり、同時にやっていく必要がある。
- ・ さらに、このように発信した情報を受けて実際にやってくる人の受け皿も直ぐに対応が必要である。DMO で検討していくことかもしれないが、例えば、SNS で英語で発信して、観光客が直ぐに来た場合どう受けるのか。今はすぐに反応し行動する時代である。このようなことも想定して、考えていく部分と行動する部分の両方が次年度は必要になってくるのではないかと思う。
- ・ DMO については、国の言う DMO にあまり捕らわれる必要はないだろう。

<事務局(町)>

- ・ 以前のこの委員会で、美里の DMO は、複数の組織がつながっているような形が良いのではないかとのご意見があった。町にとって、どのような組織が良いのかは、今後検討していきたい。国が考えている基本的な DMO については、町も勉強中である。DMO について、委員のご意見に補足すべき事項があれば、(コンサルタントより) 後説明して頂き

たい。

<事務局（コンサルタント）>

（コンサルタントより資料説明）

<委員>

- ・今回5カ年の計画ができたことは良かったが、実行されてこそその計画であり、それにしても盛りだくさんの内容である。そこで、次のステップとして、実施の優先順位があつてよいのではないか。来年度事業についても、計画と同じような形で示されているが、何を優先すべきか。今まで観光客を待つ側だった行政に最も足りないのは広報である。広報に一番の優先順位を置いて実施していくことが重要ではないか。
- ・これと並行して、ワークショップや推進協議会も実施していくが、成果が見えるものを残していくべきである。あるいは、形あるものを与えながら、ワークショップを推進していくという形にならないと、一部でやっているものになり、町民への啓発にもつながらない。観光はメリットとデメリットが表裏一体で、これを踏まえてやっていく必要がある。町の得意な分野へ誘客をもっていく方法をぜひとるべきで、いろんな方々に来て頂くのは我々がやる戦略ではないだろう。ある程度の分析を踏まえた上で、絞っていかないと、時間が足りないだろう。何を一番先にやるべきか、どこに力を置くべきかが、次年度では住み分けが重要ではないか。

<委員長>

- ・具体的なプロダクトが期待されるのが、次年度以降である。

<委員>

- ・仕事をする中で、会津美里町の観光ガイド等の話を聞く機会があるが、観光の素材としておもしろいものがあると思う。町外のお客様を町に送客する事業を担当してきたが、そのような情報を発信することで、お客様は行ってみようと思う。また、情報発信にあわせて受け入れ体制も同時進行で整えていく必要がある。

<委員>

- ・町のPRとともに受け入れ体制も早急な対応が必要だと思う。来てみたら何もなかったでは困る。例えば、お土産物が買える場所等は必要である。

<委員長>

- ・これまでも具体的な話題が議論の中に出てきたが、この計画書はそれらをひとつの風呂敷

に包んだものと言える。今度は、そこから取り出して、できるものから実施していくことが重要である。

<委員>

- ・何かをやる際に、どれだけ真剣にやろうとしているかが重要ではないか。連携がとれない部分が多々あると思うが、推進協議会等に本気になって取り組める人がどれだけいるのか。

<委員長>

- ・計画書に書かれていることを具体化する時に、難しいことが多々出てくるだろう。だからこそ、推進協議会には多くの方に参加して頂くことが重要である。

<委員>

- ・民泊の議論が続いているが、春から解禁の方向になりつつある。会津美里町で民泊がどのように進んでいくかは未知数ではあるが、当然のことながら、既存の宿泊施設と連携を図りながら、より効果的に観光客に宿泊サービスを提供していくことが、宿泊事業者の使命と考えている。
- ・情報発信はやるべきだが、巷の事例をみると、情報を発信したものの、その後のサービスが追い付いていないことが多々あるようだ。それにしっかり対応していかないと、この町の観光は前に進んでいかないだろう。サービスの裏付けとなる、クレーム処理やサービス向上に向けた対応などを、情報発信とともに、車の両輪のごとく進めていく必要がある。

<委員長>

- ・今は情報に対する反応が早いので、考えながら走る必要がある。すぐにアウトプットを求められるので、これは今後の課題である。
- ・DMO等のアルファベットの頭文字には辟易している。町の方々に話をする場合は、DMOではない日本語を使う必要がある。このようなことをやっていかないと、町民に浸透していかないだろう。DMOのような言葉を使うと、自分には関係ないと思ってしまう可能性がある。情報発信の際には、このようなことにも気を付けてほしい。皆さんの活動が町民に正確に受け入れて頂けるようにすることも、今後の検討課題である。

4. その他

<事務局> (町)

- ・計画書については、本日のご意見踏まえ、事務局で見直させて頂き、2月中旬に委員長名で町に報告する。その後、3月に議会に報告する。
- ・第4回議事録についてご意見あれば、事務局までご連絡頂きたい。

<委員長>

- ・皆さんのお知恵・ご意見が計画書に結集した。これを受け、具体的にしていくのが次年度である。今後ともご協力をお願いしたい。

5. 閉会

<事務局> (町)

- ・6月から今回まで、ご多忙中に関わらずご協力頂きお礼申し上げたい。本日の修正点を踏まえ、町長、議会に報告する予定である。計画書の完成がゴールではなく、これが新たなスタートだと肝に銘じて観光行政に携わっていきたい。委員の皆様には、今後ともご協力頂く機会があると思うが、よろしくをお願いしたい。

以上